



鹿児島県 農地バンクだより

～活かそう農地、託そう未来～

第14号

令和5年1月12日発行

公益財団法人鹿児島県地域振興公社

(鹿児島県農地バンク)

Tel.099-223-0223(農地部直通)



農地中間管理事業活用者からのメッセージ ～担い手ヒアリング実施中～

始
良
伊
佐

しらのさと
農事組合法人白男の郷
代表理事 梶原 孝次さん

始良市 認定農業者(水稲)
農地バンク活用面積12.8ha



梶原代表理事
農地バンクマグネットを貼った愛車で
事業PRいただいています

- ① 平成16年に任意組織「白男お助け会」設立、同26年に法人化(組合員25人)。現在、組合員30人(60歳以上が過半)で、ほとんどが兼業農家。専業農家は1人。
- ② 農地バンクを活用してみて特に不便はない。市役所が契約等の手続きをしてくれる(印鑑もらいを含む)ので助かっている。
- ③ 農地バンクのことを契約農家以外はほとんど知らない。知らない農家に農地バンクの話を持ちかけて説明すると、大体が了承する。現在13ha弱だが、15ha位までいきそう。

大
隅

南州エコプロジェクト株式会社
代表取締役社長 森田 俊彦さん

錦江町 認定農業者(飼料作物)
バンク活用面積2.8ha

- ① 令和3年7月に法人を設立し、約11haの農地で濃厚飼料用の子実用トウモロコシや大豆を栽培。全ての農地が正式に利用権設定済み。
- ② 県外出身の若手社員を積極的に採用し、基本的に植付けから刈取りまで自社直営で行う。
- ③ 垂水市、錦江町、南大隅町と包括連携協定を締結。農地バンクを通じて垂水市の遊休農地を借受け、大区画化を進行中。
- ④ 農業を通して地域人口や農業従事者を増やし、遊休農地の解消と地域活性化に貢献したい。



森田社長(左) 石松会長(右)
社員の皆さん

大
島
(与論)

本 光夫さん

与論町 認定農業者(飼料作物・繁殖牛)
バンク活用面積5.3ha



本さん(中央)と
県与論町駐在 田中技術専門員(左)
町産業課 市来主査(右)

- ① 島の人口よりも牛の頭数が多いため、農地が不足している。貸し借りの話はお互いで決まる場合がほとんど(所有者から「借りてもらえないか?」と直接相談がくる)。
- ② 賃借料の支払時期を気に掛けなくて済み、所有者も公的機関のバンクが間に入ることで、安心して貸し借りできる。
- ③ 高齢化が進むと、バンクへの貸付けを躊躇する所有者が増えると予想される。せっかく良い事業なので、もっと所有者向けに制度のメリットをPRすれば、事業を利用したいと思う人が多くなるのでは。

農業委員会と農地バンクとの連携について情報共有 (地域別農業委員会農地利用最適化推進会議)



9/28 鹿児島・日置地域

9月から12月にかけて、県内各地域において地域別農業委員会農地利用最適化推進会議（南薩地域は「農業委員等研修会」）が開催されました。



12/27 北薩地域(薩摩川内市と姶野町)



9/29 徳之島地域

会議では、県農業会議や県（本庁、各地域振興局・支庁）から、農業委員会による最適化活動の推進や基盤法等の一部改正に関する動向、契約によらない農地貸借（やみ小作）の解消などについて説明がありました。



12/14 大隅(曾於)地域



10/18 奄美大島・喜界地域

農地バンクからは、事業の実施状況や農業委員会との連携に向けたお願い事項などを説明しました。



11/30 南薩地域



10/27 沖永良部・与論地域



11/11 始良・伊佐地域



11/14 熊毛(種子島)地域



11/18 大隅(肝属)地域

機構関連事業推進委員会にて協議 (大崎町有村下地区)

11月30日に^{まてがやま}档ヶ山公民館において、ほ場整備推進委員会が開催され、県大隅地域振興局、町、土改連及び農地バンクから20人が出席しました。

はじめに関係機関から、換地業務の流れ（従前地調査～換地処分）や相続未登記農地における相続人代表者の確定作業などに関する説明がありました。

後半では、換地委員の選定について協議され、出席者からは「担い手も換地委員になってもらい、作り手側の意見を反映させてはどうか」といった意見が出されました。

今後、換地委員会の発足に向けて継続的に検討がされる予定です。



農地中間管理事業地元説明会に出席 (長島町小浜地区)

12月9日に小浜自治公民館において、農地中間管理事業の地元説明会が開催され、地元農家、町及び農地バンクから32人の関係者が出席しました。

会の冒頭で公民館長から「遊休農地の発生防止のため、地区全体でバンクを活用したい」とあいさつがありました。町とバンクからは、農地中間管理事業の概要と地域集積協力金等について説明を行いました。

町の事前調査によると、現時点で8割以上の集積が見込まれることから、R5年度申請を目指して町事業推進員と農業委員が連携し、耕作状況の確認などを進める予定です。



就農希望者の相談に対応 (かごしま就農・就業相談会)

1月7日に県民交流センターにおいて、かごしま就農・就業相談会（県農業・農村振興協会主催）が開催されました。

農地バンクのブースには「農地中間管理事業とはどういう事業か?」、「農地を借りるために必要な手続きは?」など7件の相談があり、職員が事業の仕組み等について説明しました。

その他、会場には農業法人や市町村、市町村農業公社などのブースも用意され、多くの方が相談に訪れていました。

